

ひがし かた じょう せき 東方城跡

東方城跡は深谷市東方にあり、低地に望む櫛挽台地の先端部に位置します。大里郡郷土誌には、大正8年頃の様子が、「平地よりやや高き丘をなし、下に城下沼を控え眺望佳也。里人城山と呼び、深谷上杉の家人の居城なりしと云えど、其何人なりしか伝えず」と記されています。北方の沼地や水田に向かって突き出た台地の縁にあり、深谷上杉氏支配下の城でした。「矢井伊勢守重家の弟、若狭守重任が東方城預かる」という史料も確認されています。深谷上杉氏は関東管領山内上杉氏の一族です。14世紀後半に、はじめ庁鼻和上杉氏と称し、庁鼻和の地に拠点を構えていたとされます。関東管領方と古河公方方との抗争が激しくなる15世紀中頃には深谷城を築き、そこを本拠地としました。先の史料から、東方城には城代が置かれていたと思われます。

豊臣秀吉の小田原征伐による深谷城開城、徳川家康の関東入国後、1590年に深谷城へ松平康直が一万石で、東方城へは松平康長が一万石で入城します。1601年に、松平康長は上州白井城二万石に移され、東方城は廃城となります。現在も土塁や堀の一部が残る他、「御所屋敷」「城主別邸」「お姫屋敷」「お庫屋敷」「仲間町」などの地名や伝承地がみられます。

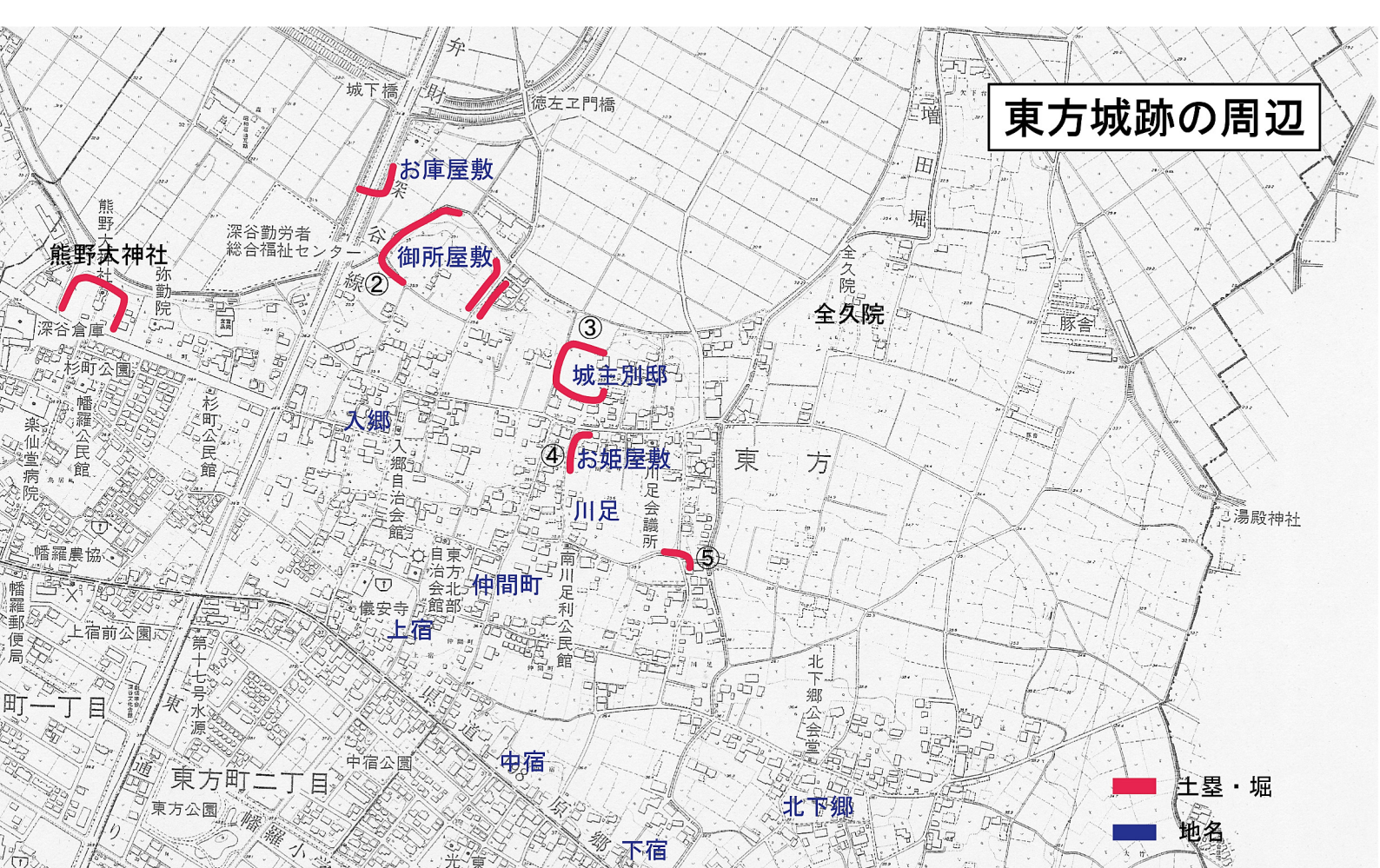
東方城跡の東には、松平康長が中興開基し菩提寺とした全久院があります。また西には、深谷上杉氏の時代から崇敬されてきた熊野大神社があります。



①東方城跡遠景(北東から)



②【御所屋敷】周辺



③【城主別邸】周辺



④【お姫屋敷】周辺



⑤東方城に伴う堀か（下郷遺跡第12次調査）